

社会資本総合整備計画

社会資本整備総合交付金

令和05年12月08日

計画の名称	伊勢原駅北口地区における市街地再開発事業による都市基盤整備														
計画の期間	令和06年度～令和10年度（5年間）												重点配分対象の該当		
交付対象	伊勢原市														
計画の目標	伊勢原駅北口地区は、小田急小田原線伊勢原駅に隣接し、市の玄関口として都市機能の集積を図る中心拠点に位置付けられているものの、既存の駅前広場は狭小かつ不整形であり、ロータリー機能が欠如するとともに、駅前広場内に通過交通や横断歩行者が輻輳しており、交通結節点として機能が不十分であった。このため、市街地再開発事業により都市計画道路や駅前広場、歩行者デッキ等の都市施設を整備し、安全で円滑な交通環境を創出することで、市の中心拠点として快適な都市空間の形成を目指す。														
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		6,567	A	6,567	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）		0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		令和06年度		令和10年度（注1）
1	北口駅前広場内への通過交通進入割合の減少			
	ピーク時における北口駅前広場内の通過交通量から通過交通進入割合を算出し、従前と従後で比較する。 （通過交通進入割合）＝（ピーク時駅前広場内通過交通量）／（ピーク時駅前線交通量）×100	96%	%	5%
2	北口駅前における車道横断歩行者数の減少			
	ピーク時における従前の駅前広場横断歩行者数と従後の駅前線地上部横断歩行者数をカウントし、比較する。 （ピーク時車道横断歩行者数）	1616人	人	80人
3	都市施設の整備による歩行者の安全性の確保			
	駅前交流拠点として歩行空間の改善効果を評価するため、市街地再開発事業施行区域のうち歩道面積を算出し、従前と従後で比較する。 （歩道面積の割合）＝（市街地再開発事業施行区域における歩道面積の合計）／（市街地再開発事業施行区域面積）×100	9%	%	31%

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－
（注1）定量的指標の最終目標値は、要素事業（A01-001）完了後の数値としている。												

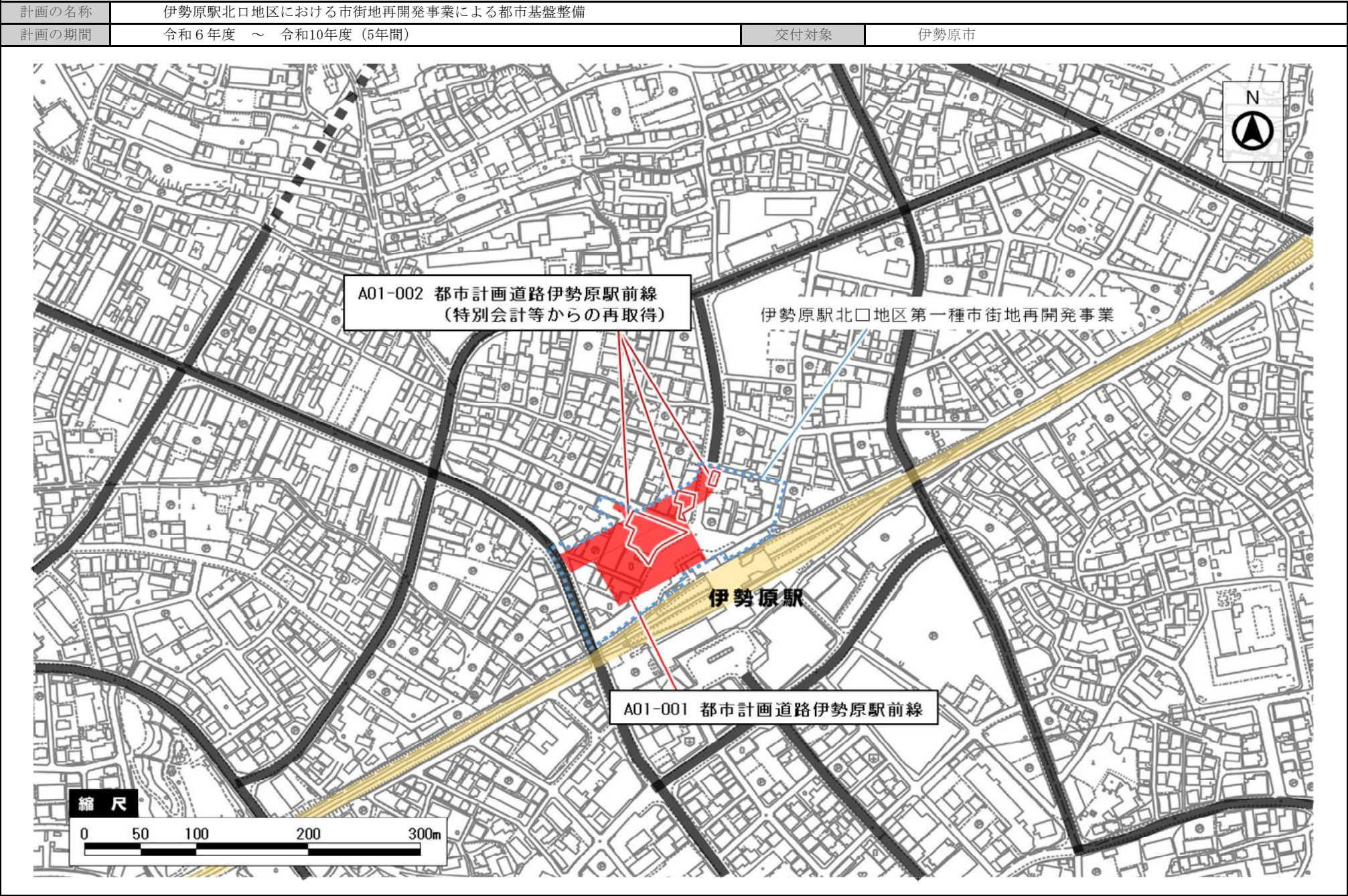
A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
道路事業	A01-001	街路	一般	伊勢原市	間接	組合	市町村 道	改築	都市計画道路伊勢原駅前 線	幅員18m、延長約140m、駅 前広場、歩行者デッキ	伊勢原市	■	■	■	■	■	5,583		－	
	A01-002	街路	一般	伊勢原市	直接	伊勢原市	市町村 道	改築	都市計画道路伊勢原駅前 線（特別会計等からの再 取得）	面積約1,640㎡	伊勢原市		■	■	■	■	984		－	
												小計						6,567		
											合計						6,567			

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R06				
配分額 (a)	0				
計画別流用増△減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	0				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	0				
翌年度繰越額 (f)	0				
うち未契約繰越額(g)	0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

参考図面（社会資本整備総合交付金）



事前評価チェックシート

計画の名称：伊勢原駅北口地区における市街地再開発事業による都市基盤整備

[illegible]